

経営比較分析表（令和元年度決算）

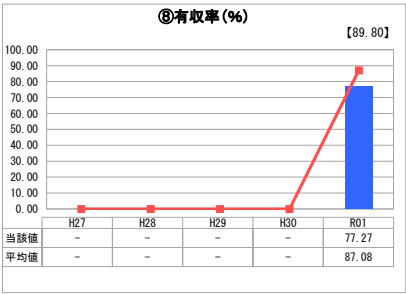
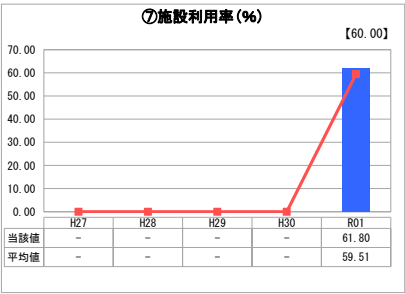
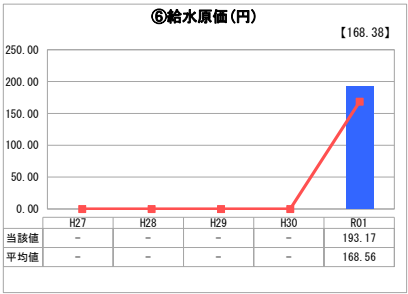
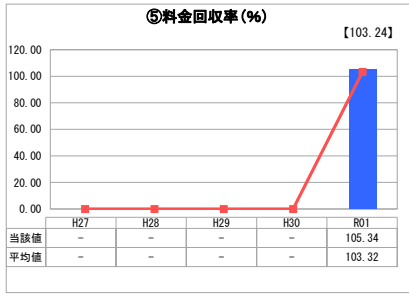
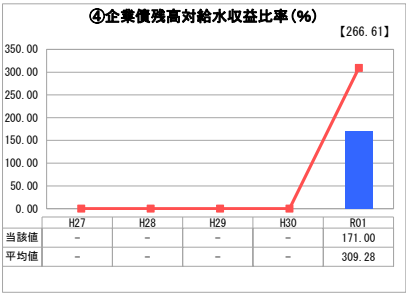
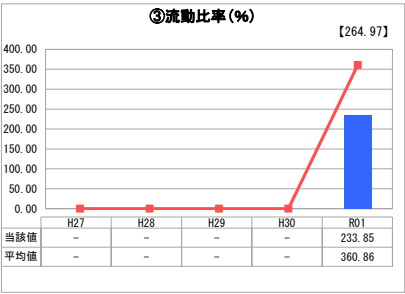
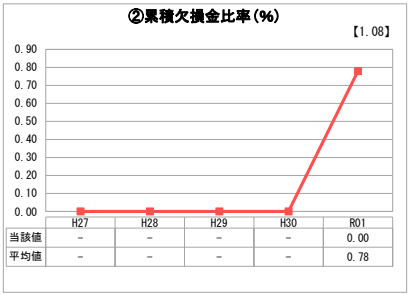
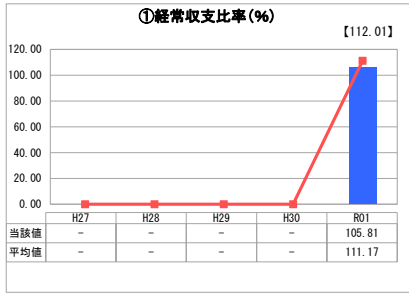
福岡県 田川広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	76.39	95.72	3,990	

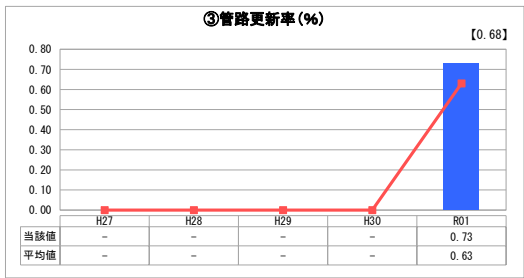
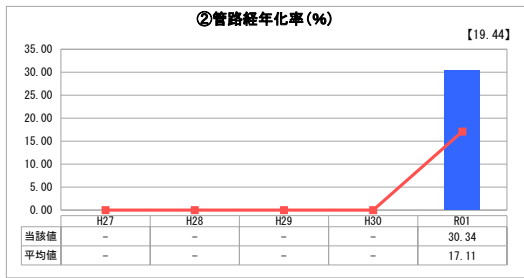
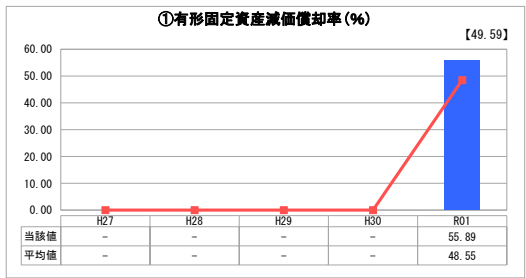
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
91,107	82.66	1,102.19

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・経常収支比率は単年度黒字を示す100%を超えており、また、流動比率は短期的な支払能力があることを示す100%を超えているが、いずれも類似団体平均を下回っている。

・累積欠損金は発生していない。

・給水に係る費用を給水収益で賄っている割合を示す料金回収率は100%を超えており、また、わずかなはあるが、類似団体平均を上回っている。

・有収水量1m³当たりに係る費用について示す給水原価は類似団体平均を上回っている。

・一日配水能力に対する一日平均配水量の割合を示す施設利用率は、類似団体平均をわずかなではあるが、上回っている。

・施設の稼働が収益につながっている割合を示す有収率は、類似団体平均を10%程度下回っている。

2. 老朽化の状況について

・老朽化を表す3つの指標は、いずれも類似団体平均を上回っており、老朽化が進んでいる状況である。

全体総括

平成31年4月1日に1企業団の用供給事業及び4市町の末端給水事業について経営の一体化後、初の決算である。

今後、給水人口の減少に伴う厳しい経営状況となることが予測されることに加え、老朽化の進んだ施設の更新等、多額の費用を要する更新事業に対して、国の交付金制度の活用など、広域統合のメリットを活かし、「健全な事業経営の継続」と「住民負担の増加の抑制」を図り、効率的かつ安定的な水道事業の経営を進めていく。